2　地理歴史・公民

学校番号	303

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「新選世界史Ｂ」　（東京書籍）						
副教材等	明解世界史図説　エスカリエ　十訂版（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

2　学習の到達目標

・世界の諸地域の歴史に対し、興味・関心を高める。
・諸地域の歴史が、現代の私たちの生活や日本の歴史といかに関わっているかを理解させる。
・諸地域に生きた人物や語り伝えられた出来事を客観的にわかりやすく理解させる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	授業態度 授業プリント 発問評価	授業態度 授業プリント 発問評価	授業態度 授業プリント 発問評価	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第2部　諸地域世界の交流と再編・第3部　諸地域世界の結合と変容	第5章　ヨーロッパ世界の形成と変動 1. ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界 2. 西ヨーロッパ世界の成立 3. ヨーロッパ世界の変動	○ ○	○ ○	○ ○	◎ ○ ○	a 商業や都市の発展、遠隔地商業圏の成立と中世都市の成立の意義を理解している。 b 教皇権の拡大と十字軍の背景、影響を西欧世界の拡大の観点から理解している。 c ビザンツ帝国の社会や文化について理解する。東欧諸国の特質を西欧と比較して考察することができる。 d カール戴冠の意義や封建社会の動揺、教皇権の衰退と王権の伸張について理解している。	授業態度 発問評価 定期考査 授業プリント
		第6章　内陸アジア世界と諸地域世界 1. 北方諸民族と宋 2. モンゴル帝国の興亡 3. ユーラシア諸地域の交流と再編	○ ○			◎ ○ ○ ○	a 唐滅亡から宋の成立にいたる時期の東アジアの変動の特徴について意欲的に追求しようとしている。 d 唐代以降の中国王朝の変遷と社会構成の変化、北方諸民族と宋、モンゴル帝国の興亡、ユーラシア諸地域の交流と再編について、基本的な歴史の流れと特色を理解している。	
		第7章　アジア諸地域世界の繁栄と成熟 1. 明と清の繁栄 2. 東アジア諸国の発展 3. 東南アジアの大航海時代 4. イスラーム諸国家の繁栄	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	◎ ○ ○ ○	a 明清帝国の繁栄、その他の東アジア諸国の発展、東南アジアの大航海時代、イスラーム諸国家の繁栄について基本的な歴史の流れと社会構造の変化について意欲的に追究しようとしている。 b 倭寇の活動と明朝の矛盾、その歴史的な影響を多角的な視点から考察することができる。 c オスマン帝国の拡大の過程をヨーロッパ世界との関連を軸にして理解している。 d 明代における東アジア、日本や朝鮮半島の動向、モンゴル人によるユーラシア制覇の過程とその歴史的意義について理解している。	

2学期	第3部　諸地域世界の結合と変容	第8章　ヨーロッパの拡大と大西洋世界 1. 大航海時代 2. ルネサンス 3. 宗教改革 4. 主権国家の成立 5. 東方の大国	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ 	○	◎ ○ 	a 大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立、アジアの諸帝国の繁栄などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b 設定された時代の諸地域の特質を見いだし、世界商業の進展などに関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c 設定された時代に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 d 大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立、アジアの諸帝国の繁栄について理解し、その知識を身に付けている。	授業態度 発問評価 定期考査 授業プリント
		第9章　産業社会と国民国家の形成 1. 産業革命 2. アメリカ合衆国の独立 3. フランス革命とナポレオン 4. ウィーン体制と1848年革命 5. 国民国家の建設と国際関係の推移 6. ヨーロッパの文化	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 	○ ○ ○	◎ ○ ○ 	a 産業の発展によるメリットとデメリットを理解する。また、アメリカとフランスの関係を理解し、歴史的意義を意欲的に追究しようとしている。 b 独立に成功したアメリカの背景、その影響をフランス革命へつながった経緯を考察させながら理解させる。 c 産業革命時の労働状況を読み取り今との違いを理解する。 d 産業革命における工業発展、アメリカが独立するまでの動き、フランス革命が起きた原因からナポレオンの動きまでを理解している。 ウィーン体制以降の国民国家建設の動きを理解している。	
		第10章　世界市場の形成とアジア諸国 1. ヨーロッパ諸国のアジア進出 2. 西アジアの変動 3. 南アジア・東南アジアの変動 4. 東アジアの変動	○ ○ ○ ○ ○	○ 	○ ○ 	◎ 	a ヨーロッパ諸国が植民地の獲得をもくろみ、アジア諸国と最恵国待遇を含む不平等条約を結ぶよう迫った点について意欲的に追究しようとする。 b ヨーロッパ諸国がなぜアジア進出をもくろんだのかについて考察することができる。 c　インド産アヘンの輸出額の推移などを見ながらアヘン戦争の影響を読み解く。 d　不平等条約の内容や、どの都市がどの国の植民地となっていったのかなどを理解している。	

3学期	第4部　地球世界の形成	第11章　世界の分割 1. 世界を支配する国々 2. アジアの民族主義と国家建設 3. 世界の一体化	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○	◎	a ヨーロッパ各国から始まった太平洋地域の植民地化、さらにそれに追随したアメリカや日本の動きについて意欲的に追究しようとしている。 b 欧米各国に進出された国がどのように対応していったのかについて考察する。 c 世界の工業生産における主要国のシェアなどから、世界の勢力がどのように変遷しているのかを考察する。 d 世界の一体化がどのように行われ、進出した国、植民地化された国それぞれの人々がどのように行動したのかについて理解する。	授業態度 発問評価 定期考査 授業プリント
		第12章　二つの世界大戦 1. 第一次世界大戦 2. ヴェルサイユ体制とワシントン体制 3. アジアの独立運動と革命 4. アメリカ合衆国の繁栄 5. 世界恐慌と自由主義への挑戦 6. 第二次世界大戦	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○	◎ ○ ○	a 2 つの世界大戦について、新たな武器の登場による戦いかたの変化、また世界大戦が世界各国に与えた影響について意欲的に追究しようとしている。 b 各国による総力戦となった 2 つの世界大戦について、何が原因で戦いが起こったのかやその影響について考察する。 c 世界大戦による死者数の資料と、これまでに起こった戦争の資料などを用い、これまでに起こった戦争とどのような点が違うかについて考察する。 d 世界大戦が起こった経緯、それによる世界への影響、2 つの世界大戦の間の世界各国の動きなどについて理解している。	

3学期		第 13 章 戦後世界の形成と変容 1．冷戦の展開と第三世界 2．平和共存と多極化 3．アメリカ経済の同様と国際秩序の変容 4．冷戦の終結とその後の世界 5．21 世紀を生きる私たち 終章 21 世紀の課題 1．民族や文化のちがいをみとめながら生きる 2．「青い宝石・地球」を未来にうけつぐ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ 	◎ ○ 	a 第二次世界大戦前には 60 あまりだった国家が現在では 200 近くになっていることを念頭に置きながら、冷戦や第三世界などの経過を意欲的に追究することができる。 200 近くの国が正に一体化しようとしているグローバル化社会において、日本国民として何ができるのか、また地球に住む者として何ができるのかということについて意欲的に追究することができる。 b 世界史 B 学習の総仕上げとして、戦後世界がどのように変容してきたかについて考察し、現在の自分と世界の歴史がどのように繋がっているのかについて考察することができる。 c 第二次世界大戦終結後の世界の GDP や、現在の世界の GDP から、世界がどれだけ発展してきたのかについて理解したうえで、現在の世界の経済格差などの問題についても考察することができる。 d 戦後世界がどのように変容してきたかについて理解すると共に、21 世紀を生きる私たちが考えなければならない課題について理解することができる。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。